

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-116	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Who seeks treatment for alcohol problems? Demography and alcohol-use characteristics of patients in taboo and non-taboo drinking groups attending professional alcohol services in Nepal.</p> <p>アルコール諸問題に対する治療を求めるのは誰か？ネパールのアルコール対策専門機関を利用する、飲酒が社会的にタブーとされる者およびタブーとされない者の特性</p>		
執筆者		
Neupane SP, Bramness JG.		
掲載誌		
Asian J Psychiatr. 2014 Dec;12:82-7. doi: 10.1016/j.ajp.2014.06.017.		
キーワード		PMID
アルコール、アルコール対策専門機関利用者、タブー、ネパール		25440566
要 旨		
目的：		
<p>アルコールの諸問題（アルコール依存症、乱用など）がある者で専門機関に助けを求める人は少なく、十分な記述的研究は行われていない。今回我々はネパールのアルコール対策専門機関の入院患者の社会背景と飲酒の特性について要約し、飲酒が社会的にタブーとされる者およびタブーとされない者の間の違いについて調査した。</p>		
方法：		
<p>カトマンズの8つのアルコール対策専門機関に入院した連続177名の男性と21名の女性を対象に、Composite International Diagnostic Interview and the Alcohol Use Disorder Identification Testを含む完全に構造化された質問を実施した。</p>		
結果：		
<p>全体で164名の患者(83%)がアルコール依存症、24名の患者(12%)がアルコール乱用のDSM-IVの診断基準を満たしていた。対象者の平均年齢は35.3(標準偏差10.1)歳で、習慣的な飲酒の開始から初回治療入院までの期間は16.8(標準偏差9.8)年であった。大多数は既婚者(62%)、都市部在住(72%)、平収以上の収入(57%)であり、適切な社会的サポートを受けており(71%)、飲酒が社会的にタブーとされるカーストグループに属する者であった(57%)。飲酒がタブーとはされない対象者は、都市部により多く住んでおり、社会経済学的地位はより低く、両親にもアルコール問題を有するとより多く報告し、より若いうちから飲酒を開始していた(P<0.05)。一方、飲酒がタブーとされる対象者では飲酒運転などのリスクのある飲み方が多く、初回治療入院までに長期間を要していた。</p>		
結論：		
<p>飲酒がタブーとされるカーストと、社会経済学的地位のより高い者がカトマンズのアルコール対策専門機関利用者の大きな比率を占めていた。このことは、危険かつ有害な飲酒と併せて、近年のネパール社会におけるアルコールに対する社会的容認に関する傾向が変化しつつあること、そして、アルコール性疾患の被害が拡大しているということを示唆している。</p>		